

## ◎ 札幌市電「路面電車無料デー」の現場から 早川 淳一(札幌 LRT の会)

6月11日と12日、世間的には3年ぶりの開催となった「YOSAKOIソーラン祭り」で賑わっている札幌市内の一角で、ひっそりと(?)開催される筈だった「路面電車無料デー」(…事実、マスコミ等では大きく取り上げられていなかった)なのですが…いざフタを開けてみると、コレが何とまあ予想外の(?)大賑わい。…つくづく、「無料」というコトバの”中毒性”(謎)ってのはオソロシキものやなあ…と、この土日の「路面電車無料デー」で各電停に溢れかえっている利用者のヤマを観ながら、つらつらと考えていました。

とにかく、土曜の昼間に所用に向かうため市電に乗ろうとした「沿線住民」の私ですら、あわや「積み残し」を喰らいそうになるありさま。夕方に再度、西4丁目に戻って来た際も、まだこのような賑わいでした。2022年6月11日、16時過ぎの撮影です。



6月中には4日間(6月11日・12日・25日・26日)予定されている路面電車無料デーですが、札幌市の2022年度予算策定資料によると、年度内に20日程度の開催が予定されています。一応、2020年度の土・日・祝日1日当たりの市電の平均運送収入(2,008千円)の3倍に当たる6,024,000円を、「無料デー」開催1日辺りの予算(従って、20回分の開催予算は1億2,000万円)として査定されていたそうです。

因みに、バス各社(中央・JR・じょうてつなど)向けにも、20日分の「無料デー」開催予算が確保されています。査定方法は市電と同じで、2020年度の土・日・祝日1日当たりのバス各社合計の平均運送収入(25,300千円)の3倍に当たる75,900,000円を、「無料デー」開催1日辺りの予算として算定しており、総額は15億1,800万円。従って、全体での「無料デー」開催向け予算は16億3,800万円が確保されています。…ただ、バス各社ではどの範囲までで「無料デー」を開催するのか



が、まだオープンにされていないようですが(札幌市域を跨ぐ利用者の適用範囲など、ツメが必要な部分も多いのでしょうね)…。

この「開催効果」をどのようにして算定(or 測定)し、次への展開に繋げて行くのか…が、気になるところです。単なる「お祭り」だけで終わらせるのではなく、今後も市電沿線にどう出掛けてもらえるのか?という観点から、きちんとした考証作業が必要だと思います。更に、バスでも規模を拡げて「無料デー」を実施しようとするのなら、なおのこと効果測定は多岐に亘って必要でしょう。

それともうひとつ。どうせ「無代放免」とするのなら、いつものように中乗り前降り(+後払い)”に固執することなく(無料デーでも、この方針は守られていました)、将来の「セルフ乗降システム」展開への可能性を検証するためにも、全ての扉で乗降可能にするか、あるいは乗車だけ中扉で降車は全屏フリーにする…等、様々な車内流動パターンを試行してみてもはどうでしょうか。”マンツーマン”を大前提とした運賃收受システムから、IC カード化を最大限活用した「セルフ乗降システム」への切替(現金客のみは従来通りとして)が定着すれば、輸送力の大きな長大編成の LRV でもワンマン運行で運用出来ることとなり、路面電車や LRT を活用できるシチュエーションが、格段に上げられるように思っているのですが…。

あ、おまけのひとコマです。

無料デーの 2 日目、6 月 12 日 18 時過ぎの、西 4 丁目電停外回り線。こんな「大迷惑」が。  
(このクルマのおかげで、電車 3 両が足止めを喰らわされていました…)

